

地域活動の輪

柏市民生委員児童委員

柏市民生委員児童委員は、厚生労働大臣の委嘱を受けて、現在493人(うち主任児童委員42人)が21地区に分かれて活動を行っています。主な活動は、福祉に関する各種相談受け付けや、関係機関との調整などです。主任児童委員になると、虐待などの児童問題に対する個別支援や、子育てサロンを開くなど、児童に関する活動が中心になります。いずれも地域で孤立しがちなかと、地域社会との橋渡し役としての役割を担っています。また、地区の協議会、その連合体である柏市民生委員児童委員協議会が設置され、委員同士の連携・地域の生活関連情報の共有などに努めています。



豊四季台地区・豊四季台西地区 民生委員児童委員「よろず相談」



民生委員児童委員が地区社会福祉協議会と連携し、毎月第2・第4金曜日に豊四季台近隣センターで「よろず相談」を行っています。

高齢になっても、障害があっても身近な地域で自分らしく安心して暮らすことができるよう、プライバシーを厳守しながら相談に応じます。生活に必要な

情報が欲しい、近所の誰かにちょっと手助けしてもらいたいなど、どこにどう相談したらよいかわからないことを気軽に相談ができると、地域のかたから大変喜ばれ、大勢のかたに利用されています。

中央ブロック主任児童委員 子育てサロン「ママの井戸端かいぎ」

特徴的な活動を紹介

「ママの井戸端かいぎ」は、中央ブロックの主任児童委員が中心となって、平成16年から毎月第2・第4木曜日にアミューズ柏で行っています。子育ての不安を軽減・解消する相談コーナーなど、身近な場所で子育て中の親子が気軽に集まり、地域で仲間づくりと情報交換ができる場所として、多くのかたが利用しています。



最近では、子育てサロンが終わった後、帰りにみんなで一緒に食事をしたり、お互いに連絡を取りあったりして、サロン外でも友達の輪が広がっています。

子育てサロンは、地域のみんが子どもの成長を見守る場として、市内のほかの地区にも取り組みが広がっています。

地域で生きる

民生委員児童委員(豊四季台地区) **小竹 恵子**



今から約三十六年前の昭和49年12月1日、私の民生委員児童委員の活動がスタートしました。地元のお店会・自治会から、地域の手伝いをしてもらえないかと相談があり、夫とも相談した結果、何事も経験と思つて引き受けることにしました。

主な活動は、地域の会議への出席や、市役所からの連絡物を各家庭に配布することでした。当時は民生委員児童委員があまり知られていないこともあり、家庭訪問では勇気がなくてなかなか玄関のチャームが押せず、長い時間たらずんでいたこともありました。そんな

なか、地域で活動するには、住民のかたの信頼がなければできないと思ひ、小さな行事にも参加し、街かどで出会ったときは、笑顔であいさつすることを心がけました。その結果、多くのかたと顔見知りになり、何気ない相談や世間話から、近況を知ることができるようになり、地域での身近な相談役として役立っているという充実感を感じることができました。また、相談に答えていると、いろいろな制度に詳しくなります。介護保険などの福祉関係はもちろんです。今後の人生、困ることはないのではないかと思っています。

大変なことはいっぱいあります。夜中に具合が悪くなったかたに付き添って、病院に行ったこともありました。朝まで、寒い病院のロビーで待っていて凍えそうになったこともあり。でも、そのかたが元気で歩いてくる姿を見るとほっとすると同時に、もっともつといろんなかたを見守つていこうという気持ちになります。人が変わり時代が変わっても、民生委員児童委員の基本である、奉仕の精神に変わりはありません。地域に愛され信頼されて初めて本当の活動が始まると思ひます。今後も地域の身近な相談役としてさまざまな活動と資質の向上に努めていきたいと思ひます。



支えあって子育てを

主任児童委員(柏中央地区) **金子 洋子**



以前、親子会の会長をした時に、地域とのつながり

の大切さ、あたたかさを感じ、また何か役に立てることがあればと思つていました。そんな時、ふるさと協議会の会長さんから、主任児童委員になってほしいという電話がありました。地域の役に立つならば、とお引き受けしました。育児不安などの課題を抱える親子への地域での支援が社会問題となっています。活動を始めてみると、身近なところでも、一人で子育てをして、なかなか友達もできないママがいることがわかりました。そこで、友達づくりの場として、

近隣の仲間と子育て支援サロン「ママの井戸端かいぎ」を計画しました。どんな内容にするか、どこで行うか、集団になることでの感染予防法まで話し合いを重ね、試行錯誤を繰り返して、やっとスタートにこぎつけることができました。当初は活動費も乏しいことから、おもちゃもペットボトルの再利用や、カレンダーの裏にお絵かきをするなど、手作りで一生懸命用意しました。そんな苦労が実り、今では大勢のかたでにぎわっています。でも、ある時参加者が減ったことがありました。「込んで遊べないよ」というママ友メールが配信されたことが原因でした。これもある意味、仲間づくりができていた証拠とうれしく思っています。時間ができた時には、伯父に誘

われて俳句の会に参加しています。いろいろなことに追われて時間が無い中で、一句読むのにも四苦八苦していますが、いい気分転換になっています。「井戸端かいぎ」もママ達の気分転換の場として、さらに多くのかたに知ってもらいたいと思つています。子育てサロン活動は柏中央地区以外にも広がっています。どんな時にも身近に相談できる人がいることが大切です。今後も、いろんなかたと連携・協力し、地域での支えあい活動の一端を担えるよう努めていきたいと思ひます。



わたしのボランティア活動

支える ふれあう つなげる

役に立てることに